

平成26年度 柏崎市刈羽郡 技術・家庭科教育研究部 活動報告

部長 保坂 尚哉

1 研究主題

- 実践的・体験的な学習を重視する教科の特性から、実習を伴う研修を行い指導力の向上を図る。

2 研究の概要

- 柏崎・刈羽の特性、特産物を生かした新しい内容について研修を深める。
柏崎市刈羽郡学校教育研究会家庭、技術・家庭科教育研究部は、小学校18名、中学校11名（技術分野 6名 家庭分野 5名）、特別支援学校4名、計33名である。小学校部会・中学校家庭科分野では、地域のゲストティーチャーを招いた研修を実施した。

3 研究の実際

- (1) 研修会 11月25日（火）
- (2) 研修内容 「いんころ作り」（柏崎市米山地域の伝承行事から）
「野菜・フルーツを使った大福作り」
- (3) 講師 菓子職人 金子 豊 様
- (4) 研修の内容

① いんころ作り

- ふるさと柏崎に伝わる「いんころ」の作り方とその由来を米山在住の菓子職人金子様から実演指導とお話をいただいた。
*「いんころ」とは、コメの粉をこねて十二支を作り、それを米山に向けてお供えをし、1年間の無事を祈るといふ柏崎伝承行事。

- 十二支の中から二つ選び「いんころ」を作る。

② 野菜・フルーツを使った大福作り

- もち粉と白玉粉を使った大福作りの説明と実演指導
- 地域の素材（トマト、イチゴ等）を、使って大福を作る。



4 成果と課題

- ・柏崎に伝わる行事や特産物を知ることによって授業に役立つ知識を得ることができた。小学校では、考えようこれからの生活「感謝の気持ちを伝えよう」や中学校では、調理と食文化「地域の食文化を知ろう」、家族・家庭と子どもの成長「家庭生活と地域」の学習に生かされる研修内容であった。
- ・昨年度までは、小学校部会、中学校家庭科分野と別に研修会を行っていたが、今回合同で開催することにより家庭科部での小中連携をどのように推進していくのかを考えるよい機会になった。
- ・今後も地域の施設や人材を活用した研修を推進していく。